

令和4年度 第1回
薩摩川内市総合教育会議
会 議 録

開催日時：令和4年10月12日（水） 開会：14時00分
閉会：15時10分

開催場所：薩摩川内市役所 5階 教育委員会室

出席者：

田中市長、藤田教育長、三本教育長職務代理者、土器手教育委員、軍神教育委員
枇杷教育委員

事務局：

（市長部局）

田代行政管理部長、橋口総務課長

（教育委員会）

上大迫教育部長、大濱教育総務課長、玉利学校教育課長、堀切社会教育課長、
中津指導担当課長

傍聴者：なし

資料：別紙による

議 事 録

令和4年10月12日（水）

【開会時刻 14:00】

(1 会次第1：開会のことば)

総務課長 ただいまから、令和4年度第1回薩摩川内市総合教育会議を開会いたします。それでは、田中市長にご挨拶をお願いいたします。

(2 会次第2：市長挨拶)

田中市長 こんにちは。本日は、お忙しい中この会議に御出会いただきまして誠にありがとうございます。私も市長就任から今月でちょうど2年になります、これまでいろいろと市政全般にわたりまして、支えていただきましてありがとうございます。

この総合教育会議は、教育委員の皆様との意見交換で、今後の教育行政の方向性の共有、連携して薩摩川内市の教育行政に取り組むことを目的に設置されております。今日のテーマは「家庭教育の現状について」ということで意見交換をさせていただきます。これもご案内のとおり、家庭は子供たちの健やかな育ちの基盤であり、すべての教育の出発点となっております。いろんな時代の趨勢もございまして、人口減少、少子化の中で地域とのつながりの希薄、あるいは親が身近な人から子育てを学んだり、助け合う機会がなくなってきているなど、一般的に子育てや家庭教育をする地域環境は大きく変化している状況にあります。子供子育ての中の家庭教育と狭いようですが、この家庭教育自体も、非常に広範なテーマでございますので、今日は説明を受けながら現状についての共通理解と、各委員が思われる、これは家庭教育にとって、こういう方向性が望ましいのではないかという意見をいただければありがたく思います。

来年度からは、国の子ども家庭庁が正式に設置され、施策展開されます。家庭教育を含めまして、我が国の子供子育ての大きな転換期にありますので、そういう意味でもよろしくをお願いいたします。

(「出席者紹介」について)

総務課長 ※ 出席者を紹介

それでは、これより議事に入りますが、市長が会議の議長となりますことから、ここからの進行を市長をお願いいたします。

(4 会次第3「家庭教育の現状について」)

田中議長 それでは、会次第の3番目の、協議、家庭教育の現状について、資料説明をお願いします

※会議資料に基づき、堀切社会教育課長が説明

田中議長 今、課長が説明したことも含まれますが、令和4年度の予算関係で、「子育てするなら薩摩川内」という項目がありまして、結婚、出産、子育てに関し、10事業で今年度は、約1億5千万円の予算を措置しました。先ほどの課長の説明と重なるかもしれませんが、その中に含まれる事業としては、出会い、結婚支援事業、子育て世帯生活支援事業、子育て支援強化事業、保育士就職支援支給事業、育児リフレッシュ事業、子ども医療費助成事業、奨学育英事業、放課後子ども教室事業、ヤングケアラーの実態調査も今年、市内の小学校、中学生の9千人の調査をやっているところですよ。

課長説明と私の予算的な概要を言いましたけれども、皆さんの中でこの広い範疇ですが、最近の動向やご自身の経験を通じて、この家庭教育の現状と課題について思うことがあれば、どなたからでもご意見をお願いできたらと思います。

枇杷委員 意見ではないですが、お礼を言いたいと思います。施策の展開の中に薩摩川内市元氣塾とありますけど、私の同級生で、40歳で失明した人がいます。その方が京都の学校関係で、障害を持った方たちへの理解というか、サポートなどをお願いする事業をされております。薩摩川内市でも10年以上呼んでいただいている、隈之城小学校、平佐西小学校でお話をさせていただいています。今までに何校何人の子供たちにいろいろなことを伝えられたかというデータを持ち合わせておりませんが、薩摩川内市元氣塾で予算を組んでいただいたおかげで、それも実現できたと思っています。10年以上続けられたことも感謝しています。

田中議長 土器手委員は、PTA関係で子育て世代ですが、今、家庭に限らず、PTA、学校とかの会で何がご自身の身の回りのことについて、何かありませんでしょうか。今日は会議で決めるのではなく、情報共有のする場の会議です。

土器手委員 核家族化とか共働き世代とありますけど、これが今は普通の世の中で、もう何十年と核家族化、ここ20年、30年共働き世代となってきました。今、自分は子育てをしている立場として、自分の普通を教えて、人としてまっすぐ生きるように話をしますが、自分の普通が周りの家庭の普通なのかわからないし、反対に別の家庭での普通がわからない。私の普通とは違うし、子供たちが、どうしてそんなこともわからないんだろうという子も増えてきている場合もあると思いますし、家で教えることができない。私はいつも言いますが、結局、親世代が子供なんじゃないかと。多分、皆さんご承知だと思いますけど、親が親としての知識を身につけないとい

けない中で、親が子供の知識だからどうやってしつけていくんだと。親の教育からが大事だなと思いながら、その親の教育も結局共働きとかだったら、隣近所の付き合いも希薄だし、自治会活動もなかなか参加しない。

今、自治会で役員をしています。やっぱり、自治会活動に参加すれば隣近所同士も分かるようになって、いろんな行事で盛り上がれたりします。今、コロナで2・3年は自粛ムードだったのですが、これからアフターコロナに向けて、自治会活動とか隣近所の横のつながりができてくれば、総合計画にもありますが、机上の理論ではなくて、地域に根ざした活用をしていければ、子供たちにも良い環境になると思っています。子供教育だけを見るのではなくて、子供の教育だけでは子供は育たないし、周りの環境含め、行政、個人と団体とつながりができて人間形成はできるので、子供のうちに少しでも経験をしてもらえたらと思っています。

ちなみに、今、暗いニュースが多い中でニュースを見るたびに、ふと、娘にそういうニュースを見ながら、「よかったね。お父さんの子で」と言ったら、娘がご飯を食べながら「うん」と言ってくれたのが、小学校6年生のムスツとした年ごろですけど、嬉しかったなと思います。やっぱり普段の会話でも、積極的に親としても子供たちが疲れていても話しかけていくようにはしています。

田中議長 ありがとうございます。土器手委員のおっしゃるとおりで、人口減少と高齢化は、地方創生が言われて、総人口は減り続ける中で、今のこの家庭教育、子供育を含めて、絶えず議論を続けなければ、そういう人口の安定性というのではないと思います。

それから、私の両親は他界していますが大正生まれの両親で、私は、昭和31年生まれです。昭和生まれの私の子供たちは、平成生まれです。私がしつけられた家庭教育の価値観でしか子供に言えなかったのですが、なかなか親になり切れず、ここまできている。今、土器手委員がおっしゃったような、当たり前親子関係とか家庭教育も変遷していくということかなと思います。今の親は、平成世代です。令和生まれの子供たちが出来た時に新しい関係性としては、平成生まれの新しい親が、令和生まれの子供たちとの関係ということになります。この家庭教育という教育全体が、時代の趨勢に合わせた変遷を辿っていくのではと思います。教育長も話されたように、ますます親子のふれあいとコミュニティとの関わりが大事だなと思いました。

軍神委員 最近、私の考え方が少し変わってきています。国も確かに少子化対策とか、出産に対して給付を増やすなど、いろいろ考えています。学校に勤めていた時は、PTA等に来れる人はよいけど、来られない方はいろいろ課題があると思っていました。そんな見方をしてたんですけど、今、児童クラブとか保育園を見ましてもなかなかやっぱり、家庭の中で最初から、例えば離婚する前の方々が一緒に暮らしているとか、その他もろもろ問題があって、家庭の中もあるんですけども、出産して、その後の子育てが十分にできる社会ができているのかというところが最近疑問を感じています。例えば母子家庭とか父子家庭になりますと、働いて収入を増やそうと思え

ば時間外まで働く。時間外まで働くと子供と接する機会というのは少なくなると。じいちゃん、ばあちゃんとというようなことになる。そのようになっていくと、働くことと、子供を育てること、親としてどっちを優先するかとなると、やはり生活を支えていくうえでは、働く方を優先してしまうのかなど。これから先は、やはりその辺を国とか行政の施策として、重点をおいていただいて、母子家庭でなくてもいいんですけど、安心して子育てができるようにしてほしいです。また税制も仕組みがわからないですけど、例えば、一人目よりは二人目、三人目がという風にどんどん下がったりします。そういう施策があったり、そういうことができれば、いろいろなものが少し解決していくのではないかと思います。何よりもやっぱり親が基本であって、親と子供が側にいない限りは、その家庭教育というのは向上しないし、地域社会の助け合いは必要です。安全、安心というのは社会が創るものですから、周りの方々もそういうことを意識しながら、会社の社長さんたちの意識とかあるいは、地域社会のそういうことを考えていってくれば、今後は出産も不安なくできて、その後も父親母親も子育てができるんじゃないかなど。そういうところが私自身も少し考え方が変わってきて、今まではちゃんとしなない親が悪いというような考え方をもっていましたが、そうではなくて私達も組織を変えていかないといけないと、最近はそのようなことを思っています。令和5年にできる子ども家庭庁にすごく期待を持っていますし、どのような施策を出して、子育て社会を支援してくれるのかと思っています。

田中議長

ありがとうございます。座長の認識で言うと、我が国の予算配分は、高齢者の方に、非常にシフトしていると思います。地方創生が言われたしたのは、政府が初めて構造的な人口減少を認めてからです。その予兆は、もう30年くらい前から統計的にある。なかなか政府が認めず、結果的に高齢者もですが、政策の重点範囲が問題であると思います。軍神委員が話されたように、後で全国市長会の動きを話しますが、今回はその子供に対する施策を子ども家庭庁にまとめて、文科省が1つ、大きな組織と2つあって、子供子育てを連携するという組み立てになっているようです。この連携もですが、それ以外の経済産業省と厚労省もやっぱり子育てしやすい環境には不可欠だという意見が出ています。10月4日に全国市長会の子ども・子育て検討会議のオンライン会議がありまして、全国市長会の子ども分科会の私はその委員の一人で、その会議の少子化対策で言われたのが、子ども家庭庁の仕事には、少子化対策は入っていないということでした。ある市長が言われたのは、「少子化対策の責任はどこかと言ったら、国全体の責任である。」と話された。家庭教育ということを充実させるのは、それ以後の子育てをする環境自体を補償や医療費で働きやすい環境を整えなければならぬということでもあります。その中でも出てきたのは、わかりやすいので言いますと国が子供の医療費無料化の制度を統一して一斉に国の責任で行うということです。今、統一されていないですね。薩摩川内市はやっていますが、できないところも全国にはあります。それから、少子化対策に育児休業の拡充ということで、「休業中の給料の補償をなさい」というある市長の意見もありました。育児休業で休んでしまえば、給料は

半減または支給されないことになるので。育児休業と言っても、ある程度の給料が補償されるようになっていく。そういう意見が出ているのが今の市長会の状況です。三本委員どうぞ。

三本委員 薩摩川内市では、家庭教育について、家庭教育学級とか、子育てサロンとか、学校関係の各PTA活動等を行っておりますが、先ほどからありますように保護者の皆さんの利用が少ないことが現状です。しかし、その中でも中央公民館での子育てサロンとか、参加者が少ないですけど参加して子育てに悩んでるお母さんたちが参考になったという報告がありますので、活動として継続していく中で、保護者の価値観がそれぞれ違いますので、1ページにありますように子育てについての悩みを相談されたときは、きちんと聞かれる耳はあるので、自分のどこがいけないんだろうかと思った時に、アドバイザーの立ち位置というのが非常に大事になると思います。それと、お父さん、お母さん、シングルマザーの人たちでも、子育ては初めての経験なので、子供が成長することと、悩みは並行して大きくなっていきます。保護者も一緒に親として育っていくという意識をどこかに持っていて、私の経験ですが、自分の親を持った時にやっぱり子供が多くて忙しくて、あまり電化製品もない頃でしたので、なんだかんだ言って子供に正面は向いてなくて、後ろ姿を見せていたような気がします。それでも、こういうことをしたらいけない、ああいうことをしたらいけないという自分たちに戒めみたいなのはありましたが、そこが変わってきたのかなと思います。薩摩川内市の少年自然の家でもマウンテンバイクの100キロ走破をやっています。その中で子供たちは、自分と向き合う心というのをしっかりとキャッチして、他の仲間と自分の弱さとか克服できない甘さというのをクリアしていつても、すごいなといつも思います。私たちができることは、家庭の中に入ることはなかなか難しいですので、気づいてもらえるチャンスをたくさん作ることだなと思います。

田中議長 ありがとうございます。枇杷委員、ご自身の考えや経験はありませんか。

枇杷委員 実は、姪が今子育てというか、大きくなっても子育てでしようけど、薩摩川内市で小学校1年生と幼稚園の年中さんがいます。その姪が話していたのがとても嬉しくて。資料の4ページにあるように薩摩川内市はとても子育てし易いと。子育て支援センターがあったり、いろいろな相談できる窓口とか、子供が生まれてすぐは、産後ケアもしていただいて、とても気持ち不安定になったりするお母さんたちが子供を連れて遊びに行けるといふか、相談に行けるといふようなところがあるといふのはとてもいいことだと思っています。

また家庭教育が大事だと思うなかで、保育園の存在は子供にとっておうちなんです。先生方がすごく保護者のような気持ちで子供にかかわっていて、きっとその子たちにとってとても大切な人間関係を作っていて、児童クラブも充実していて、仕事で忙しくても児童クラブに行くことで、その先生たちとのかかわりの中で子供たちが学んだり、いろんな気づきがあると思います。

それから家庭教育が大事だということ、保護者の関わりが大事だと思ったことが、学校保健安全研究大会で九州大学の佐藤先生だったと思いますが、大学に来てる子供たちは90パーセントくらいが親にお弁当を作ってもらっていた子供たちが多く。お弁当を作ってくれる親ということが、やはりほったらかしでなく、子供を大事に思ってるんだらうということ言われていたのを覚えています。あと、先生の講話の中で、アルコール中毒の保護者の子供さんで、洋服も汚れていて、先生が気づいて、ちょっと声を掛けたり、いろいろして下さることで、その子はすごく救われたと、そして結局学校の先生になったという話を伺ったりしました。やはりベースは家庭が大事だなというのはすごく感じています。薩摩川内はSSWの方等が手厚く関わってくださっているので、すごくありがたいと思うのですが、その子に何かのタイミングで気づきがあると、そこですごく変わることが出来たりするのかなというのは感じているところです。

田中議長 ありがとうございます。子育ての悩みのところで三本委員からありましたが、産後ケアについて、私も令和デザイントークという場で、県の助産師会の方々と意見交換して、予算的にはささやかでしたが、子育ての悩みというのは、妊娠というかその頃からずっと子である限り、親である限りありますが、出産直後の産後ケアは、時代の潮流的に非常に大事だというのは見直されていますので、これをまた大事にしていきたいと思います。

それから、三本委員からあった意見に関連するかもしれませんが、自分の体験談で話すと、昭和31年生まれで今月66歳。大正生まれの両親から厳しくではないが我慢することの家庭教育を受けました。親には反発してましたが、自分が親になると今度それが子供に対する自分のしつけの教養範囲になり、自分が我慢するという教育を受けたことから子供たちも我慢させてきたのではと思う。時間を取り戻すことはできないが、今こういう年代になって、そういう意味の優しさがあってもよかったのではと思うところです。時代の変遷が大正、昭和、今、平成が終わり令和です。これからの新しい家庭教育のあり方というのを、私自身も振り返ってますが、市長になってからもそういう意味の政策方針とか教育に係る政策も、自分の信念とかそれは大事にするんですが、政策展開的には持続可能なという未来志向の方で、いろんな人の意見を聞いて、平成令和の子供たちが育っていくような仕組みの議論をしていかないといけないなということを、今、痛切に考えています。教育長どうぞ。

藤田教育長 今、教育委員のお話を聞きながら改めて子供の成長のベースは、つまり子供の育ちというスタートが家庭であると思いました。学校教育は、何よりも子供たちが自分の将来に向かって選択する力をつける、学力をつける、判断力をつける場所であるとも。ただ、10年毎に学習指導要領が改訂されますが、今、子供たちに求められている力は、友達の意見を多く聞いて、それを自分の言葉で自分の考えを相手に伝える力であり、これを授業づくりの中でキーワードとして進めています。しかし、本市においても、資料にありますように育ちをめぐる問題の一つに不登校の問題があります。薩摩川内市は、平均して出現率が2.4パーセントぐらいです。100人い

れば、2人が不登校であると。学びの機会を子供たちが失っているということについては、どの校長も私たちも共通した認識ではありますが、ただ先ほど軍神委員からありましたように、不登校について考え方も少しずつ変わってきています。市長からもありましたように、世の中が変わってきているということであれば、自分たちも押し付けではなくて変えていかなければならないと思います。今、お手元に配っております又、前方にも掲げております「魅力ある学校づくりプロジェクト」に反映させました。これは、国の教育政策研究所が提唱している調査研究授業のモデル授業として、川内北中校区の北中、亀山小、可愛小、育英小を昨年度から指定していただいています。今年、国の委託事業として進めているところです。考え方を変えるという点では、これまで不登校の児童生徒が「なぜ学校に来ないんだろうか、来れないんだろうか、原因は何だろうか」ということを追求をしてきたわけですけど、90パーセント、95パーセントの子供たちはなんで学校に来れるんだろうかという発想のもとで「学校が楽しい、みんなで何かをするのが楽しい、授業がよく分かるよ、授業に自分から進んで取り組んでるよ」という4つの項目で、アンケート等を取っていきます。先ほど言いました4校に限らず、全学校でプロジェクトを今年度4月からスタートさせました。それは不登校対策に特化して進めるだけではなくて、私は学力向上の基盤は学級経営だと思っていますが、それは間違いなく、昨年度、今年度と本市の小学生が学力調査で県の平均、国の平均を上回ったという結果がでております

それから、授業をする教員が「人としてどんな魅力があるのか、又はあの先生が楽しいから、あの先生の話や説明は、分かりやすいから早く学校に行きたい。」とか、そういう子供のわくわく感を教師が出してくれるんじゃないかなということも大切であります。それから、「お友達がクラスにいるから、このクラスはとていいクラスだから、困ってる時に助けてくれるから。」という学級づくりが重要です。それから何ととっても、先ほどもありましたけども、結びつきが希薄になっている地域について、亀山地区のコミュニティ協議会が不登校の生徒に声を掛けて地域の行事に参画させてくださるということから、地域のおじさんが子供の名前や顔を知っている。これが魅力ある地域づくりではないかなと思いました。

それから、市長が先ほどおっしゃったように「声」をスタートにする。子供の「声」をスタートにする。保護者の、地域住民の「声」をしっかりと聞いたうえで、何を求めているかということ把握していかないと乖離してしまうので、まずここがベースになります。そのためには、このPDCAサイクルで年に3回見直しをして、子供の「声」とずれないようにしていくという修正を各学校しているところです。

子供たちの家庭の問題はありますが、うちの学校の学力が上がらないのは、家庭学習が足りないからだという先生がいた場合に、学力をつけるプロとして、先ほどエピソードをご紹介されましたけれども、そういうような教師が一人でも側にいてくれたら、子供は学校に来るといふ思いで全学校で取り組んでいるのが「魅力ある学校づくり」です。何よりもこれまでの教育委員会事務局が取り組んできた小中一貫教育とコミュニティスクール、これを大きな強みとして、これからこの「魅力ある学校づくり」は続

けていきたいと思います。それが、保護者にとっても学校に子供が行くことの喜びが出てくるのではないだろうかと思っています。まだ、道半ばですけど、引き続きこれはやっていきたいなと思っています。以上です。

田中議長 ありがとうございます。これは今年からだったですね。

藤田教育長 今年度スタートしました。

田中議長 魅力ある学校元年ですので大事にさせていただけたらと思います。それこそ絵にあるように教育長が言われた保護者、子供たちの声からスタートということですので、非常に切れない関係ですので大事なことだと思います。皆様の方から何かないでしょうか。軍神委員どうぞ。

軍神委員 いろいろなところで出てくるのですが、パソコンの関係です。学校にもパソコンをいれて、授業でも活用したりするのですが、この発展とともにスマートフォンも含めて、家庭教育の中で、邪魔してる部分があるのではないかなと思います。スマートフォン、関連してゲームというのがあって、働くお父さん、お母さんとの生活とも関係するでしょうけれども、やはりこのスマートフォンやパソコンを家庭で指導できるかなと。なかなか難しいかもしれませんけれども、スマートフォンを与えたら、もうこれを取り上げることは親子喧嘩を相当しない限りは不可能です。例えば、与えるなら与える理由があるので、親はしっかり子供に言い聞かせて与えるとか。あるいは塾に通っているとか、そういうこともあって安全面から与えている人もいるかもしれませんけれども、それが例えばいつまでもゲームをしたら、2時間でも3時間でも夜中までしているという状態が続かないように、スマートフォン、ゲーム等の指導というのはどうしても家庭教育の向上や、親子の絆を作るためにも、あるいは、子供の体制を作るためにも必要じゃないかなというふうに思っています。

田中議長 まさしくその通りです。土器手委員はどうですか。子供さんのスマートフォンやゲームについて、土器手家の話せる範囲で取組みをお話してください。

土器手委員 高校3年の娘は持ってるんですけど、いらないんじゃないかなというくらい、使ってる姿を見たことがないです。携帯も雨が降ったから迎えに行くよとLINEしてもずっと既読にならない。そのくらい勉強が好きなのかなというくらい、めったにいじらない。下の男の子は、中学3年生ですけど、持たせていないので友達とか部活の際には、うちの奥さんの携帯に連絡が入りますけど、触るときは必ず「お母さん。LINE見せてね」といって見せるようにしている。下の6年生の女の子は、ポチポチ見えます。iPadは、私の携帯とセットで買ったので、ユーチューブでダイエット動画とか、パッと見てみたらお気に入りとかすごくしている。そこはお父さんの名前でダイエット動画をお気に入りに入れるのは、やめてほしいところでもあります。うちは、よく言われるようなそこまでの依存はないし、

やる子ってどこまでやるんだろうと、反対に興味があるくらいです。うちの子は見ても、もう見るのやめなさいと言えはすぐやめる感じです。

田中議長 ありがとうございます。土器手委員ルールが好ましいと私も思います。特に、私の感覚で言えば、この令和になってから著しく、DXというかSNSの世界的な急発進があって、これと子供が引っ付かないということはないわけで、今、委員が話されたようなご懸念とか利便性とその陰の部分は表裏一帯であります。だからこそ余計、家庭内と我々というかその地域の見守りが必要なのでは。学校教育の方でも、目の健康を含めて、家庭の触れ合いの議論もずっと続くと思うところです。

土器手委員 うちの子はあまり触らないからこそ、気になるのが社会に出て、まだ社会にでるのはまだまだ先のことですが、携帯を使って、仕事をしはするんでしょうけど、反対に使わなさ過ぎて大丈夫なのかなと思う時もあります。学校とかでタブレットとかあると思いますけど、反対に制限し過ぎて、今の時代であればエクセル、ワードとか常識なのを分からないまま、その頃どうなっているかわからないですけど、新しいソフトのことさえもわからないまま、いきなりパソコンだけ渡された時に、使わなさ過ぎて、どこまで対応できるのかなという不安もあります。

田中議長 昨年度からギガスクールで、小学校1年生以上にタブレットを配備しています。そういう時代の趨勢にあっているとと思うが、懸念してることを行政、政府がやってるといえるのはあります。そのことを含めて私の時代とは、全く違うという状況です。

藤田教育長 はい。一人1台のギガスクール構想において、タブレットを予算かけて配布していただきました。学習機会ということで、特にコロナ禍において、以前は、10日でしたけれども、来れない子供に対しての学校からの学習機会を与える。それを持ち帰りをどうするかという議論もしたところでした。今、Wi-Fi環境も結構整ってきまして、光ファイバーも全市的に整備されておりますので、しかし、保護者の許可をもらって持って帰るといような手続きをする際に聞こえてきたのが、うちには持ち帰らせないでくださいという保護者もいました。それは、壊すということもあるし、今、長時間の視聴、それからいわゆる不適切なネットへのというような心配をされている保護者もいたのは事実です。それからあと、先ほど不登校の話をしましたけど、以前は、いじめにあって学校に行けない、先生が怖いとか、学校のある程度の要因があったんですけども、最近の本市の分析結果からいうと親子関係、家庭生活に起因するものというのが多くなってきています。家庭生活に起因するというのは、昼夜逆転をしてしまう。それは、軍神委員が紹介してくださった。長時間にわたるスマートフォン、ゲームの使用について。負のスパイラルに陥ってしまうといわゆる中毒症状が出てくると、これは本市ではありませんけど、ある市では、そういうスマートフォン依存症の子供たちを1か所に集めて矯正していくという家があるということです。徹底的に、規制をかける。しかし、中毒ですので大

暴れをしたり、かえって自分のそのゲーム機を投げて壊すとかそういうような子供たちも現実的にはいるということです。本市においては、昨年度、中学生の生徒会が中心になって、10校の代表が集まってスマートフォンに関して、自分たちで気を付けましょうと、家庭ではこういう風に気を付けましょうというメッセージのポスターを作って全小学校、中学校に掲示してあります。それが実行あるものにやっていかないと委員の皆さん方が心配なさってる方向にいつてしまった時が怖いなと思うところです。

田中議長 ありがとうございます。この、DX、SNSは私も15年ぶりに薩摩川内市に帰ってきて、非常に薩摩川内市の行政事務は議会も含めて進んでいると思います。今、四役の電子決済が90パーセント前後です。押印決裁は全くないという状況になって、自分自身も驚いています。それから、私が就任して2年ですが市長室の書類は、もう全部断捨離しました。紙も大事ですが、職員に聞けば分かりますし、調べ物をするのは、スマートフォンで例規類集、法律、条例全部調べられるので紙もめくることはありません。1日、2時間から3時間スマートフォンを見てるようで、定期的に「あなたは平均2時間から3時間見えます」とスマートフォンに報告が出ます。三本委員どうぞ。

三本委員 ここ10年くらいの間に発達障害の児童生徒の皆さんがバイトをしているということで文科省からの発表がありました。子供たちに共通するのが脳の異常、脳の違いを持って生まれるということが、分かってきているということです。国立環境研究所の近年の調査で、その発達障害は遺伝的な要因よりも、環境的要因の方が大きいと考えられるというふうに説明が出てます。先ほど市長も、言われましたけど昭和31年のお生まれということで、ちょうど、市長世代の方たちから、私たちが上なので、ウルトラマン世代と言ってました。それは何かといたら、丁度その頃から、インスタント食品が出回り始めた時代です。この頃から同時に農薬とか化学肥料、そして化学物質も商品に使われ始めました。今、お配りした資料の中で原材料名というところをちょっと見ていただくと、上がジュースですね。下の2段目がヨーグルトですけど、見ていただいた時に日頃見るという機会はないかと思うんですが、非常に化学物質が多いということです。その中である牧場の安定剤、香料は不使用という表示がしっかりと出てます。これは、安定剤というのは、この説明の下の方にありますけど、ヨーロッパでは、乳児向けに対して使用が禁止されているということで、これは、胎児とか乳児期には、血液脳関門というのが非常に未発達なために脳の発達障害が成人より起きやすいということで使用禁止になってるということです。そして、ある企業のこちらを見ていただければ、一番下にトランス脂肪酸の低減に取り組んでますというのが出てますけれども、これもトランス脂肪酸についても、5・6年前まではアメリカでも25パーセントくらい使ってました。これが、安い油なので。日本でも結構出回ってたんですけど、ある企業の方でそれに低減に取り組んでますという表示をしっかりとあります。これが、また、先ほどいじめとか、協調性、そしてこの子供さんたちが成長してからの社会の一員として生活などに深刻な問題が

起きてくるのではないかなと非常に心配しています。発達障害の減少に向けて、何か私たちが出来ることはないのかなと考えた時に、やはり危険だと言われている農薬、化学肥料は極力、流水で洗い流して生野菜は食べないようにして、野菜類はゆで通して除去するというのと、それから、化学物質については、商品を手にする時、見ながらチェックしてジュースなんかを手にとった時に、このジュースの代わりに麦茶にしたらどうかとか、炭酸水にしたらどうかとか、ミネラルウォーターにしたらどうかとか、それをチェックする習慣づけができないのかなと思っています。高校生がこの間、地球温暖化の取組に一生懸命やってきましたけれども、海水温が上がるとか、砂地がなくなっているとか、生態系が変わっていると、それを高校生が一生懸命、できる範囲ほんとにささやかですけど、アンデスのくちばしではないですけど、自分ができることをしていくことが未来に向けていくことなのかなという風に思いましたのでお話をさせていただきました。

田中議長 ありがとうございます。他の委員の皆さんから全体的に何かありませんでしょうか。

最後に私が2つご報告申し上げます。全国市長会の子ども子育て検討会議の他の市長さんのご意見もですが、特に意見が出されたのが子ども家庭庁の事業メニューというか考えの中に、子供の意見を聞く仕組みを作りましょうという大きなテーマがあります。意見が出されたのは、どの市長さんも難しいということでした。なぜかと言いましたら、不登校とか虐待、ヤングケアラーと言われる子供の意見を直接聞く仕組みが非常に難しいということです。枇杷委員からも出ましたけど、本人の変化に気づく仕組みづくりというか、気づきと相談先です。ヤングケアラーの調査結果も薩摩川内市も出ますが、そういうことを解決するために国は、子ども家庭庁によって子供の意見を聞く仕組みを作りますが、それは、現時点の判断では難しいということです。だから、本人の変化に気づく仕組みを作りましょうというような意見が、10月4日の市長会で出ました。

それともう一つは、今、三本委員から出ました発達障害児の意見をどうやって聞かすかということです。ある市では該当する子供がいらっしゃるといって市長さんもいました。あと関連して離婚が子供に与えるダメージも考えるべきということで。離婚そのものが、子供に与えることの影響も子供から意見を聞き取るべきだということですが、それもまた難しいということです。聞かないといけないが、それもまた難しいという生々しい、市長さんの意見もありました。

最後に市の取組みですが、今、薩摩川内市48地区コミュニティ協議会がありまして、地区振興計画の改定作業に入っています。令和4・5年で、令和6年から令和10年までの各地区の計画を作成します。10月1日に48地区に1人ずつ市の職員をサポート（支援員）として配置しました。この地区支援員の辞令交付でも言いましたが、この各地区コミュニティの振興計画の中に、家庭、学校がコミュニティの中に触れ合い関わる計画を考えてくださいということです。今後、人口減少が続くコミュニティの中であれば、地区コミの役員とか自治会長さんとか、その方々も自分の地区内にある小中学校とか、そこと密の関わり合いを施設利用や環境美化を含

めて一緒になって取り組むことが非常に大事なのかなと私の持論もありましたが、そういうことも地区支援員の職員に言ってあります。私の母校は全校で26人です。八幡地区コミュニティの一番奥の役田という限界集落ですけど、その中であって、この八幡地区コミュニティの地区振興計画の向こう5年間分を作ろうとした時には、必然的に、そういう地区住民が、今いる子供たちとこれからいるであろう子供たちに携わっていかなくてはならないというのは、自分の実体験を踏まえての考え方です。全市的にも当分の間人口減少は、川内小、平佐西小でも減少は続きますので、そういう関わり方をずっとしていくべきだなと思います。いろいろ各委員の思いを出していただきまして、私も自分の考えをいろいろ申し上げました。それでは以上で意見交換、協議の部は閉じさせていただきます。4のその他で、何かありませんでしょうか。三本委員どうぞ。

三本委員 7月31日からSSプラザで、日展の鹿児島会会場薩摩川内展が開催されました。よかったなあと思って。私も長いこと薩摩川内市に旧川内からに日展をしていただいて、市民の皆さんに見ていただきたいなと思ったんですけど、なかなか実現できなくて、今回は藤田教育長が動いてくださって、その場が提供できたということで、作品がそれぞれ、美術館に勤めてらっしゃる方が絵を見てこうだ、ああだと言うことは描いた人にもわからないと。ただ、観た人がどう感じるかということで、それぞれが観た感じを、言い合うということも非常に大事で、先ほどありましたけど、薩摩川内市が、子供たちが、それぞれいろんな考えを出し合って、そして主体的、対話的な深い学びができる場として、会場をしてくださってありがとうございました。よかったです。

田中議長 他にその他事項ないですか。それでは、今日の総合教育会議をこれで終わりたいと思います。ありがとうございました。

(6 会次第6：閉会)

総務課長 以上を持ちまして、令和4年度第1回薩摩川内市総合教育会議を閉会させていただきます。皆さん、本日はどうもありがとうございました。

【閉会時刻 15：10】